

■ 松山圏域活性化戦略会議専門委員会 意見対応表

NO	意見者	意見内容	対応
1	愛媛大学 前田眞教授	第1期に掲げた将来像を第2期に継承することは問題ないとする。KPIの達成率も高く、順調に推移されている。一方、KPIの達成率と現場での実効性は、市民の実感を踏まえた検証の仕組みがあればと思う。	第1期の市民の実感を踏まえた検証を行う仕組みとして、アンケート調査を実施しており、各取組について満足度などを評価できるようにしています。また、その結果はP56～60にまとめており、その結果を踏まえ、各取組に反映しています。
2		SDGsの目標との対応表記については、ぜひ取組んでいただきたい。	P1の策定の趣旨に「注目されつつあるSDGsの考え方を取り入れ、持続可能で誰一人取り残さない魅力的で誇れる圏域をみんなで作り上げていく必要がある」と記述し、P71、72でSDGsの概要と17ゴールとロゴの説明を、P73、74でビジョンの各取組ごとにゴール・マークの紐づけを分かりやすく示しています。
3	松山大学 河内俊樹准教授	第2期ではKPIの達成について、PDCAサイクルをうまく活用することで、確実にクリアできるよう適宜見直しをしていただけたらと思う。	年度単位で事業効果を分析・評価するためにKPIを設定しています。各年度でKPI達成調査（照会）を実施し、以下のとおり事業の効果検証を行い必要なアプローチやアクションの見直しをしていきます。（P2推進方策） ・引き続き計画通りに進めるのか ・取組を続ける中で、いくつかの設定や視点を改善するのか ・取組を中止・延期するのか
4	聖カタリナ大学 恒吉和徳教授	「子育て・介護にかかる人材確保・育成」と「耕作放棄地」の課題について、喫緊の課題でもあり、取組にあってもよいと思うが。	子育て・介護に係る人材の育成については、第1期から継続するP87「(323)児童クラブ支援員研修の連携」、P88「(324)子育てイベントや研修の共同開催」などの取組の中で、引き続き人材の育成に努めていきます。次に、有害鳥獣被害の背景としての耕作放棄地問題については、耕作放棄地が減少した結果、有害鳥獣の生息域が狭くなり、被害減少に繋がると考えています。今後も引き続き、それぞれの対策を検討・実施する中で、関連付けていくことでさらなる効果が期待できるものがあれば、取り組んでいきたいと考えており、第2期ビジョンのP77「(122)有害鳥獣の連携捕獲」の中の位置付けで対応していきます。
5		第2期のビジョンの書きぶりの中で、それぞれの市町が持つ強みと弱みをまとめた内容があれば、取組の中身につながりやすいのではないかと。	P5からの各市町の見開き紹介ページで産業構造など他市町との違いを分かりやすく示すデータを詳細に掲出するとともに、簡潔に市町の特徴をまとめた文章を加えています。また、P17以降に各統計データの分析から当圏域の特長などを、さらにP46以降では他圏域と比較した数値も掲出しており、圏域や市町の強み、弱みを示しています。
6	松山東雲女子大学 野方円准教授	スケールメリットを生かした取組について、暮らしやすい地域であることを表現できるようにしてはどうか。	P53の高次の都市機能の集積・強化の課題のうち「医療・消防・防災機能の強化」として「スケールメリットを生かした取組として医療面では引き続き、医師の確保など体制を維持していくための連携と協議が必要であり、また、消防分野においては第1期ビジョンの取組の成果を生かし、消防機能の共同運用や合同での職員採用、事例研究を実施するなど、より安全・安心で暮らしやすい地域の形成に向けた検討が必要」との記述としました。
7	県立医療技術大学 草薙康城教授	地域を活性化し、経済を持続可能なものとするために、第2期ビジョンを策定することは意義あることであり、しっかり取組をすすめていただきたい。	圏域の活性化につながる取組を着実に進めてまいります。